

トランプが喝采するジョージア州の群衆に話す：「我々は 勝った」

我々はこの州を取るために懸命に戦っている

@NeonNettle

December 6, 2020



トランプがジョージア州選挙の腐敗のありさまを強調

ドナルド・トランプ大統領が、上院議員 David Perdue と Kelly Loeffler のための、上院決定戦のキャンペーン中、吼えるようなジョージアの群衆に向かって言った。

大統領は、彼が大統領選に勝ちつつあると、繰り返して主張した。

「我々はジョージアを勝ち取ったということだ。そう理解してよい」と、トランプは言った。

「我々はあなた方を愛する！」

「我々はこの選挙に勝ちつつある」と彼は続けた。

「我々はこの州を得るために、全力をあげて戦っている。」



トランプは、ジョージア州の、来る決勝戦は、「歴史上最も重要な議会決勝戦だ」とつけ加えた

トランプは、ジョージア州の選挙における、腐敗のありさまを強調した。

「いろんな数値が、天井からはみ出したり、皮カバンから飛び出したりすれば、誰だって、〈これはどうなっているのだ?〉と言うだろう。」

トランプは、やがて起こるジョージア州の決勝戦は、「歴史上もっとも重要な議会決勝戦だ」とつけ加えた。

次に大統領は、有権者たちに、パーデューとリーフラーを、支持するように要請した。

「あなた方がそれをやらねばならない。彼らは不正を働いた。我々の大統領選挙を愚弄した。しかし、それでも我々は勝つ」と、彼は言った。

トランプは次に、民主党は、この州の上院決勝戦をスチールしようと計画している、と警告した。

すると群衆は、いっせいに「ストップ・ザ・スチール！」を合唱し、大統領は、選挙戦を勝ち取るよう努力を訴えた。

トランプはまた、ジョージア州知事ブライアン・ケンブと、州務長官ブラッド・ラッフエンスバーガーとの、彼の論争について触れた。

「それは、ここ、あなた方の政府次第だ。どういう理由かわからないが、あなた方の州務長官と知事は、Stacey Abrams を恐れている」と、彼は言った。



この週早々、トランプ陣営は、ジョージア州に訴訟を提出し、大統領選の結果を覆そうとした

ケンプもラッフエスンバーガーも共に、先月、ジョー・バイデンのジョージア選出を確定する書類に署名した。

しかしトランプは、この選挙をずっと最高裁まで、訴訟に持ち込むことを誓った。

「もし我々が勇気と知恵をもつならば、どういう答えが正しいかは、自分でわかるはずだ。なぜなら、あなた方が人民に与えて突き放したのもをもって、彼らを突き放すことはできないからだ」と彼は言った。

大統領は民衆に、彼らは 2020 年に、歴史上のどんな大統領よりも、多くの票を勝ち取ったことを思い出させた。

「彼らは、我々が負けたと信じさせようとしている。我は負けなかった。彼らは沢山の投票用紙がうまくいっていると思った。そして一部を除いたりもした」と彼は言った。

トランプは後に、もし彼が公平に行われた選挙に負けたのなら、譲って大統領職を降りることに、何の問題も感じなかつたらうと言った。

「もし私が負ければ、非常に潔い敗者になろうと思った。私は負けを認め、フロリダに帰って、これを心安らかに受け止めようと思った。…しかし彼らがスチールし、不正や盗賊行為を行うならば、それを受け入れることはできない。」

今週早い時期に、トランプの陣営は、ジョージア州に新しい訴訟を起こし、大統領選の結果を覆そうとした。

この訴状は、金曜日の夕方に提訴され、「桃の州」の投票結果を無効にしようとしている。そうならば、この選挙の全国的な結果に、莫大な影響を与えることになる。——以上

【Greatchain 訳注】

実質的にこれで、トランプ大統領の逆転当選が決まったということだろう。これを読むと、民衆の不正暴露活動が激しかっただけでなく、この勝利をもたらしたのは、粘り強く渡り合って相手を諦めさせた、トランプ自身の偉業だったことがわかる。それと、人事を尽くして天命を待つという、彼の信仰者としての度胸が働いていたことがわかる。

しかし、ここから先、どういうことが起こるかは、全く予断を許さない。自暴自棄になった者が何をするかわからず、しかも、良心も誇りももたぬ彼らは、どんなことでも痕跡を残さず、いとも簡単にやっつけてのけるだろう。

ごく新しいニュースで、トランプ・チームの最大の働きをした、元ニューヨーク知事のルーディ・ジュリアーニ弁護士が、突然、コロナを発症したという。これは偶然かもしれないが、そうでないかもしれない。また、トランプのもとに復帰した、マイケル・フリン将軍によると、彼の周囲には命の脅威を感じている者が多く、現在、ある人物が集中治療室に入っているという。このような「事故」が起こらないことを、祈るのみだが、我々一般人をも巻き込む、暗く恐ろしい時代が始まることは、不可避のように思われる。